

科目名	運動学実習					単位数	1	時間数	30	
授業形態	実習	対象学生	OT 2年	学期	後期	教員実務経験		有	使用教室	レクリエーション室
授業概要	運動学の知識をもとに、実際の身体運動を観察することを通じて、その仕組みについてさらに理解を深めることができる内容を学習する。									
一般目標	活動の基本となる姿勢および立ち上がり動作などを観察し、身体活動・動作の特徴やその仕組みについての知識を身に付ける。									
テキスト 参考書等	解剖学・運動学で使用した教科書類をすべて参考図書として使用する。 その他、随時資料を配布する。									

到達目標		
知識(認知領域) 基本的な動作について分析し説明できる。		
技術(精神運動領域) 基本的な動作について模倣できる。		
態度(情意領域) 授業に積極的に参加できる。 授業に出席する。		
回数	授業内容	授業目標
1	立ち直り反応の観察①	立ち直り反応について説明できる。
2	立ち直り反応の観察②	立ち直り反応について評価できる。
3	立位姿勢の観察①	立位姿勢について説明できる。
4	立位姿勢の観察②	立位姿勢について評価できる。
5	肩甲上腕リズムの観察①	肩甲上腕リズムについて説明できる。
6	肩甲上腕リズムの観察②	肩甲上腕リズムについて評価できる。
7	肩甲上腕リズムの観察③	肩甲上腕リズムについて評価できる。
8	立ち上がり動作の分析①	立ち上がり動作について説明できる。
9	立ち上がり動作の分析②	立ち上がり動作について評価できる。
10	立ち上がり動作の分析③	立ち上がり動作について評価できる。
11	正常歩行について①	正常歩行について説明できる。
12	正常歩行について②	正常歩行について評価できる。
13	異常歩行について①	異常歩行について説明できる。
14	異常歩行について②	異常歩行について評価できる。
15	まとめ	全講義を振り返り、いずれの項目についても説明できる。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験				評価なし	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGPA点数
小テスト				評価なし	
宿題授業外レポート	○			100	
授業態度				評価なし	
発表・作品				評価なし	
演習		○		評価なし	
出席			○	欠格条件	
担当教員	濱本 尊博		実務経験紹介	作業療法士として7年間一般病院に勤務し、運動器疾患等担当経験を有する。	

科目名	運動器障害作業療法評価法					単位数	2	時間数	30	
授業形態	講義	対象学生	OT 2年	学期	前期	教員実務経験		有	使用教室	401教室、レク室
授業概要	作業療法で実施する身体機能にかかわる評価法の概要を説明する。上位学年で作業療法評価学をスムーズに履修できるようにするため、基本的な目的、手順、留意点を学習する。									
一般目標	身体障害領域で用いられる評価の概要を理解できる知識を習得する。									
テキスト 参考書等	標準作業療法学 作業療法評価学 第3版(医学書院) 新・徒手筋力検査法 第10版(協同医書出版社) 適宜資料配布									

到達目標		
知識(認知領域) 各評価技術に関する基本的な目的、手順、留意点を理解できる。		
技術(精神運動領域) 無し		
態度(情意領域) 主体的に授業に臨むことができる。		
回数	授業内容	授業目標
1	Vital Sign/身体計測	Vital Sign/身体計測に関する目的、手順、留意点を説明できる。
2	身体計測	Vital Sign/身体計測に関する目的、手順、留意点を説明できる。
3	関節可動域測定①	関節可動域測定に関する目的、手順、留意点を説明できる。
4	関節可動域測定②	関節可動域測定に関する目的、手順、留意点を説明できる。
5	徒手筋力検査①	徒手筋力検査に関する目的、手順、留意点を説明できる。
6	徒手筋力検査②	徒手筋力検査に関する目的、手順、留意点を説明できる。
7	感覚検査①	感覚検査に関する目的、手順、留意点を説明できる。
8	感覚検査②	感覚検査に関する目的、手順、留意点を説明できる。
9	上肢機能検査(STEF)	上肢機能検査に関する目的、手順、留意点を説明できる。
10	脊髄損傷の評価	脊髄損傷の評価に関する目的、手順、留意点を説明できる。
11	末梢神経損傷の評価	末梢神経損傷の評価に関する目的、手順、留意点を説明できる。
12	関節リウマチの評価	関節リウマチの評価に関する目的、手順、留意点を説明できる。
13	ボディメカニクス①	ボディメカニクスを学ぶ意義を理解し、基本的な知識を習得できる。
14	ボディメカニクス①	ボディメカニクスを学ぶ意義を理解し、基本的な知識を習得できる。
15	まとめ	

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGPA点数
小テスト				評価なし	
宿題授業外レポート				評価なし	
授業態度				評価なし	
発表・作品				評価なし	
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	
担当教員	河本 玲子		実務経験紹介		

作業療法士として医療・保健施設、および教育機関での実務経験が20年以上ある。	
--	--

科目名	義肢装具学					単位数	2	時間数	30	
授業形態	講義	対象学生	OT 2年	学期	後期	教員実務経験	有	使用教室	401教室・木工金属陶工室	
授業概要	先天的あるいは外傷・疾病の結果による四肢欠損・切断に対して、義肢・装具を用いることで身体機能・生活機能を補い、社会生活への参加を促進する。作業療法士として、義肢装具に関する知識・技術を身につけることは必須である。この授業では、義肢装具に関する基礎的な知識を学ぶ。									
一般目標	義肢・装具の基本的な知識を習得する。 義肢の適合判定の知識・技術を習得する。 義肢の装着訓練の知識・技術を習得する。 義肢・装具の支給にかかる制度を理解する。									
テキスト 参考書等	義肢装具学 医学書院 適宜資料配布									

到達目標
知識(認知領域) ・義肢の種類、適応、適合を理解し、説明できる。 ・義肢・装具の支給にかかる制度を理解する。
技術(精神運動領域) ・義肢の適合判定の知識・技術を習得する。 ・義肢の装着訓練の知識・技術を習得する。
態度(情意領域) 意欲を持って授業に望むことが出来る。 授業に参加できる。

回数	授業内容	授業目標
1	義肢装具とは／義肢の歴史／切断原因(白澤)	義肢装具の定義について学ぶ。義肢の歴史、義肢装着に至る主たる切断原因について理解し、説明することが出来る。
2	義肢の分類(白澤)	義肢の分類、適応について理解し説明することが出来る。
3	義足(白澤)	義足の種類、特徴、適応、装着方法について理解し説明することが出来る。
4	義手の種類・特徴①(白澤)	義手の種類、特徴、適応、装着方法について理解し説明することが出来る。
5	義手の種類・特徴②(白澤)	義足の種類、特徴、適応、装着方法について理解し説明することが出来る。
6	義手の適合判定(白澤)	義手の適合判定について理解し説明することが出来る。
7	義肢・装具の支給制度(白澤)	義肢・装具の支給制度について理解し説明することが出来る。
8	義肢まとめ(白澤)	義肢に関する学習を振り返り理解を深めることが出来る。
9	装具総論、上肢・手指装具(石丸)	装具の種類について理解し、説明することが出来る。上肢・手指装具について名称、各部名称、適応について理解し、説明することが出来る。
10	スプリント作成(石丸)	短対立装具、指伸展装具の作成
11	体幹・下肢装具(石丸)	体幹・下肢装具について名称、各部名称、適応について理解し、説明することが出来る。
12	スプリント材料の種類・特徴・製作方法(石丸)	カックアップスプリント製作手順を理解することが出来る。
13	スプリント作成(石丸)	カックアップスプリントの作成が出来る。
14	スプリント作成(石丸)	カックアップスプリントの作成が出来る。
15	まとめ(石丸)	装具に関する国家試験問題に取り組みつつ、理解度を確認する。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			90	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80～89点
宿題授業外レポート				評価なし	良(2):70～79点
授業態度				評価なし	可(1):60～69点
発表・作品		○		10	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	白澤 伸一、石丸 拓也		実務経験紹介	作業療法士として医療機関で神経疾患、運動器疾患患者への義肢装具使用経験あり(白澤・石丸)	

科目名	高齢期作業療法学				単位数	2	時間数	30	
授業形態	講義	対象学生	OT 2年	学期	前期	教員実務経験	有	使用教室	401教室
授業概要	高齢期を迎えた対象者の心身機能の変化をとらえる方法(評価)や、疾病等によって生活上の動作・行為に支障をきたした場合に作業療法士がどのように介入するのか座学で学ぶ。また、高齢期に至る生活歴を振り返ったり、高齢期の人々とのかかわり方について講義と演習によって学ぶ。								
一般目標	高齢社会といわれる我が国の現状をふまえ、高齢期の心身の変化や障害に対する知識を習得する。また、高齢者に対する作業療法の評価や訓練方法の知識を習得する。								
テキスト 参考書等	標準作業療法学 専門分野 高齢期作業療法学 第3版(医学書院)								

到達目標		
知識(認知領域) ・高齢期の心身の変化や障害について説明ができる。 ・高齢者に対する作業療法について説明できる。		
技術(精神運動領域) ・なし		
態度(情意領域) ・毎回の授業に参加できる。		
回数	授業内容	授業目標
1	高齢社会および高齢期の特徴(中村)	高齢社会および高齢期の特徴が説明できる。
2	高齢期のリスク(中村)	高齢期に起こり得るリスクについて説明できる。
3	認知症(中村)	認知症をきたす代表疾患について説明できる。
4	作業療法の実践(中村)	現在とこれからの介護予防事業について説明できる。
5	高齢期の一般的特徴(東野)	高齢期の生理的・身体的特徴について説明できる。
6	高齢期の一般的特徴(東野)	老年症候群および高齢期の精神的・心理的特徴について説明できる。
7	作業療法評価(東野)	高齢期作業療法で代表的な評価が列挙でき、説明できる。
8	作業療法評価方法の実施(東野)	高齢期作業療法で代表的な評価が列挙でき、実施できる。
9	人権と尊厳について:高齢期の人とのかかわり方(東野)	人権と尊厳を説明できる。また、高齢者の人権や尊厳を尊重したかかわり方を説明できる。
10	人権と尊厳について:高齢期の人とのかかわり方(東野)	人権と尊厳を説明できる。また、高齢者の人権や尊厳を尊重したかかわり方を説明できる。
11	援助者のための一般的注意(東野)	高齢者に対する基本的態度、高齢者のリスク管理等について理解し、説明できる。
12	援助者のための一般的注意(東野)	高齢者に対する基本的態度、高齢者のリスク管理等について理解し、説明できる。
13	病期に応じた治療・援助方法の違いについて(東野)	病期に応じた作業療法の違いを説明できる。
14	実施場所に応じた援助内容の違いについて(東野)	実施場所に応じた援助内容の違いを説明できる。
15	実施場所に応じた援助内容の違いについて(東野)	実施場所に応じた援助内容の違いを説明できる。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80点以上
宿題授業外レポート				評価なし	良(2):70点以上
授業態度				評価なし	可(1):60点以上
発表・作品				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	中村敏浩、東野幸夫		実務経験紹介	作業療法士として高齢期障害患者を含む幅広い対象への作業療法に20年以上の経験がある。	

科目名	神経障害作業療法学				単位数	2	時間数	30	
授業形態	講義	対象学生	OT 2年	学期	前期	教員実務経験	有	使用教室	401教室
授業概要	神経障害領域の作業療法の基礎知識および作業療法の知識について学習する。								
一般目標	・脳血管障害を有する方に作業療法を実施する際の知識を学習する。 高次脳機能障害を有する方に作業療法を実施する際の知識を学習する。 中枢神経系の変性疾患を有する方に作業療法を実施する際の知識を学習する。								
テキスト 参考書等	標準作業療法学 身体機能作業療法学 第3版 標準作業療法学 高次脳機能作業療法学 第2版								

到達目標		
知識(認知領域) 各疾患の基礎知識、作業療法の目的・意義を説明できる。		
技術(精神運動領域) なし		
態度(情意領域) 授業に参加できる。		
回数	授業内容	授業目標
1	脳血管障害の作業療法	症状、評価法、治療法について説明できる。
2	脳血管障害の作業療法	症状、評価法、治療法について説明できる。
3	脳血管障害の作業療法	症状、評価法、治療法について説明できる。
4	脳血管障害の作業療法(失語症に対する作業療法)	症状、評価法、治療法について説明できる。
5	脳血管障害の作業療法(失行(運動・行為の障害)に対する作業療法)	症状、評価法、治療法について説明できる。
6	脳血管障害の作業療法(失認(対象認知の障害)に対する作業療法)	症状、評価法、治療法について説明できる。
7	脳血管障害の作業療法(半側空間無視に対する作業療法)	症状、評価法、治療法について説明できる。
8	脳血管障害の作業療法(記憶障害に対する作業療法)	症状、評価法、治療法について説明できる。
9	脳血管障害の作業療法(注意障害に対する作業療法)	症状、評価法、治療法について説明できる。
10	脳血管障害の作業療法(遂行機能障害に対する作業療法)	症状、評価法、治療法について説明できる。
11	脳血管障害の作業療法(社会的行動障害に対する作業療法)	症状、評価法、治療法について説明できる。
12	パーキンソン病の作業療法	症状、評価法、治療法について説明できる。
13	筋萎縮性側索硬化症の作業療法	症状、評価法、治療法について説明できる。
14	脊髄小脳変性症の作業療法	症状、評価法、治療法について説明できる。
15	神経筋疾患の作業療法	症状、評価法、治療法について説明できる。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80点以上良(2):70点以上
宿題授業外レポート				評価なし	良(2):70点以上可(1):60点以上
授業態度				評価なし	可(1):60点以上
発表・作品				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	上原 奈緒子		実務経験紹介	神経障害関連施設で作業療法実施経験あり	

科目名	神経障害作業療法評価法A					単位数	2	時間数	30	
授業形態	講義	対象学生	OT 2年	学期	前期	教員実務経験	有	使用教室	401教室	
授業概要	神経障害領域の中でも、主に中枢神経系の障害による内容を講義の対象とする。特に脳血管障害による障害については、作業療法士が対象とすることが多い。そのため、脳血管障害を主としその他の疾患についての、評価法を学習する。									
一般目標	・各神経障害の病態に関する知識を習得する。 各神経障害に対する作業療法評価の概要を習得する。									
テキスト 参考書等	標準作業療法学 作業療法評価学 第3編									

到達目標		
知識(認知領域) ・授業で取り上げた疾患に対する評価法を説明できる。		
技術(精神運動領域) ・なし		
態度(情意領域) ・授業に出席する。		
回数	授業内容	授業目標
1	神経障害領域の作業療法評価	中枢神経疾患領域の作業療法評価の基礎知識を説明できる。
2	脳血管障害の作業療法評価	脳血管障害の作業療法評価を説明できる。(運動機能)
3	脳血管障害の作業療法評価	脳血管障害の作業療法評価を説明できる。(運動機能)
4	脳血管障害の作業療法評価	脳血管障害の作業療法評価を説明できる。(運動機能)
5	脳血管障害の作業療法評価	脳血管障害の作業療法評価を説明できる。(運動機能)
6	脳血管障害の作業療法評価	脳血管障害の作業療法評価を説明できる。(運動機能)
7	脳血管障害の作業療法評価	脳血管障害の作業療法評価を説明できる。(感覚機能)
8	脳血管障害の作業療法評価	脳血管障害の作業療法評価を説明できる。(知的機能)
9	脳血管障害の作業療法評価	脳血管障害の作業療法評価を説明できる。(その他)
10	脳血管障害の作業療法評価	脳血管障害の作業療法評価を説明できる。(その他)
11	神経筋疾患の作業療法評価	神経筋疾患の作業療法評価を説明できる。
12	神経筋疾患の作業療法評価	神経筋疾患の作業療法評価を説明できる。
13	変性疾患の作業療法評価	変性疾患の作業療法評価を説明できる。
14	変性疾患の作業療法評価	変性疾患の作業療法評価を説明できる。
15	まとめ	全講義を振り返り、履修内容についてはそれぞれ説明できる。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80点以上
宿題授業外レポート				評価なし	良(2):70点以上
授業態度				評価なし	可(1):60点以上
発表・作品				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	上原 奈緒子		実務経験紹介	神経障害領域の医療施設での実績あり	

科目名	神経障害作業療法評価法B					単位数	2	時間数	30	
授業形態	講義	対象学生	OT 2年	学期	後期	教員実務経験	有	使用教室	401教室	
授業概要	神経障害に対する基本的な検査についての基本的知識学習する。									
一般目標	脳血管障害、外傷性脳損傷、高次脳機能障害に対する検査について、基本的知識を身に付ける。									
テキスト 参考書等	教科書:神経診察クローズアップ 改訂第2版(メジカルビュー社) 標準作業療法学 高次脳機能作業療法学(医学書院)									

到達目標		
知識(認知領域) ・授業で取り上げた検査について、その目的や内容について説明できる。		
技術(精神運動領域) ・なし		
態度(情意領域) ・授業に積極的に参加できる。 ・授業に出席する。		
回数	授業内容	授業目標
1	記憶障害の評価(上原)	記憶障害の意義・目的・方法について説明することができる。
2	注意障害の評価(上原)	注意障害の意義・目的・方法について説明することができる。
3	半側空間無視の評価(上原)	半側空間無視の意義・目的・方法について説明することができる。
4	失認(対象に認知の障害)の評価(上原)	失認の意義・目的・方法について説明することができる。
5	失行(運動・行為の障害)の評価(上原)	失行の意義・目的・方法について説明することができる。
6	遂行機能障害の評価(上原)	遂行機能障害の意義・目的・方法について説明することができる。
7	社会的行動障害の評価(上原)	社会的行動障害の意義・目的・方法について説明することができる。
8	失語症の評価(上原)	失語症の意義・目的・方法について説明することができる。
9	まとめ(上原)	第1回からの履修内容について、各項目を説明することができる。
10	脳神経評価(濱本)	脳神経評価の意義・目的・方法について説明することができる。
11	筋緊張評価(濱本)	筋緊張評価の意義・目的・方法について説明することができる。
12	協調性評価(濱本)	協調性評価の意義・目的・方法について説明することができる。
13	バランス評価(濱本)	バランス評価の意義・目的・方法について説明することができる。
14	反射評価(濱本)	反射評価の意義・目的・方法について説明することができる。
15	摂食・嚥下評価(濱本)	摂食・嚥下評価の意義・目的・方法について説明することができる。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGPA点数
小テスト				評価なし	
宿題授業外レポート				評価なし	
授業態度				評価なし	
発表・作品				評価なし	
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	
担当教員	上原 奈緒子、濱本 尊博		実務経験紹介		

科目名	神経障害作業療法評価法実習					単位数	1	時間数	30	
授業形態	実習	対象学生	OT 2年	学期	後期	教員実務経験	有	使用教室	401教室・レク室	
授業概要	神経障害に対する基本的な検査についての基本的知識学習する。									
一般目標	脳血管障害、外傷性脳損傷、高次脳機能障害に対する検査について、基本的知識を身に付ける。									
テキスト 参考書等	標準作業療法学 作業療法評価学 第3版(医学書院) 標準作業療法学 高次脳機能作業療法学 第2版(医学書院) 教科書:神経診察クローズアップ 改訂第2版 (メジカルビュー社)									

到達目標		
知識(認知領域) ・授業で取り上げた検査について、その目的や内容について説明できる。		
技術(精神運動領域) ・授業で取り上げた検査について、正確かつ迅速に実施できる。		
態度(情意領域) ・授業に積極的に参加できる。 ・授業に出席する。		
回数	授業内容	授業目標
1	記憶障害の評価(上原)	記憶障害評価の意義・目的・方法について説明し、実施することができる。
2	注意障害の評価(上原)	注意障害評価の意義・目的・方法について説明し、実施することができる。
3	半側空間無視の評価(上原)	半側空間無視評価の意義・目的・方法について説明し、実施することができる。
4	失認(対象に認知の障害)の評価(上原)	失認の評価について意義・目的・方法を説明し、実施することができる。
5	失行(運動・行為の障害)の評価(上原)	失行の評価について意義・目的・方法を説明し、実施することができる。
6	遂行機能障害の評価(上原)	遂行機能障害の評価について意義・目的・方法を説明し、実施することができる。
7	社会的行動障害の評価、失語症の評価(上原)	社会的行動障害の評価、失語症の評価について意義・目的・方法を説明し、実施することができる。
8	脳神経評価①(濱本)	脳神経評価の意義・目的・方法について説明し、実施することができる。
9	脳神経評価②(濱本)	脳神経評価の意義・目的・方法について説明し、実施することができる。
10	筋緊張評価(濱本)	筋緊張評価の意義・目的・方法について説明し、実施することができる。
11	協調性評価(濱本)	協調性評価の意義・目的・方法について説明し、実施することができる。
12	バランス評価(濱本)	バランス評価の意義・目的・方法について説明し、実施することができる。
13	反射評価①(濱本)	反射評価の意義・目的・方法について説明し、実施することができる。
14	反射評価②(濱本)	反射評価の意義・目的・方法について説明し、実施することができる。
15	摂食・嚥下評価(濱本)	摂食・嚥下評価の意義・目的・方法について説明し、実施することができる。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGPA点数
小テスト				評価なし	
宿題授業外レポート				評価なし	
授業態度				評価なし	
発表・作品				評価なし	
演習		○		評価なし	
出席				欠格条件	
担当教員	上原 奈緒子、濱本 尊博		実務経験紹介	各教員とも神経障害関連医療施設で作業療法評価の実践経験あり(上原・濱本)	

科目名	生活環境論					単位数	2	時間数	30	
授業形態	講義	対象学生	OT 2年	学期	後期	教員実務経験		有	使用教室	401教室・ADL教室
授業概要	住環境整備について基礎的知識を学習する。 福祉用具について基本的な知識を学習する。									
一般目標	住宅改修に必要な基礎知識を習得できる。 住宅改修事例を通して、作業療法士に必要な生活と住環境の捉え方に関する知識を身に付ける。 各種の福祉用具を実際に使用することで、その目的や内容に関する知識を身に付ける。									
テキスト 参考書等	作業療法学全書「作業療法技術学2 福祉用具の使い方・住環境整備」 (協同医書出版社)									

到達目標		
知識(認知領域) 福祉用具について説明できる。 住宅改修について説明できる。		
技術(精神運動領域) 福祉用具を制作することができる。 簡単な図面が作成でき、改修ポイントを提案できる。		
態度(情意領域) 授業に積極的に参加できる。 授業に出席する。		
回数	授業内容	授業目標
1	福祉用具について	ベッド・ベッド周辺機器、移動、移乗用具について説明できる。
2	福祉用具について	車いす、リフト、吊具について説明できる。
3	福祉用具について	入浴・排泄用具、コミュニケーション用具について説明できる。
4	福祉用具について	自分で作りたいものを考えることができる(用途、政策案)。
5	福祉用具について	福祉用具が制作できる。
6	福祉用具について	福祉用具が制作できる。
7	福祉用具について	福祉用具が完成できる。
8	住宅改修の基礎知識 住宅改修の検討事項	住宅改修の基礎知識・検討事項について説明できる。
9	屋外の段差の解消 玄関、廊下の段差解消	屋外、屋内の段差解消について説明できる。
10	手すりの設置 浴室、トイレの改修	手すりの設置、浴室、トイレの改修について説明できる。
11	車椅子での環境(屋内)	車椅子での屋内環境について説明できる。
12	車椅子での環境(屋外)	車椅子での屋外環境について説明できる。
13	車椅子での環境(まとめ)	車椅子での住環境について説明できる。
14	福祉機器展への見学実習 (住宅改修事例①)	福祉機器の目的や使用用途について説明できる。 (住宅改修事例について説明できる。)
15	福祉機器展への見学実習 (住宅改修事例②)	福祉機器の目的や使用用途について説明できる。 (住宅改修事例について説明できる。)

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80点以上
宿題授業外レポート				評価なし	良(2):70点以上
授業態度		○		評価なし	可(1):60点以上
発表・作品		○		評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	濱本 尊博		実務経験紹介	作業療法士として医療機関に7年間勤務し、福祉用具の提案および住環境調整の経験あり。	

科目名	生活行為向上マネジメント論					単位数	2	時間数	30	
授業形態	講義	対象学生	OT 2年	学期	後期	教員実務経験	有	使用教室	401教室	
授業概要	国や日本作業療法士協会は生活行為向上マネジメント(MTDLP)を活用した実践を求めている。MTDLPを理解できていないことは恥ずべきことと捉えられる。本科目ではMTDLPの意義やプロセスを理解し、演習につなげるための基礎知識習得を目指す。									
一般目標	生活行為向上マネジメントのプロセスを理解する。									
テキスト 参考書等	事例で学ぶ生活行為向上マネジメント(一般社団法人日本作業療法士協会編著) その他 適宜、プリント配布									

到達目標		
知識(認知領域) MTDLPの意義やプロセスを説明できる。		
技術(精神運動領域) 認知領域で得た知識や考え方を基に、自身の考えを表現、説明できる。		
態度(情意領域) 面接演習では節度ある態度で臨むことができる。		
回数	授業内容	授業目標
1	生活行為向上マネジメント(MTDLP)概論(渡辺)	MTDLPの背景や意義を説明できる。
2	MTDLPの流れと各シートの説明(渡辺)	①生活行為聞き取りシート②生活行為アセスメント演習シート③生活行為向上プラン演習シート④興味・関心チェックシート⑤生活行為課題分析シート⑥生活行為申し送り表の内容やプロセスを説明できる。
3	MTDLPの流れと各シートの説明(渡辺)	①生活行為聞き取りシート②生活行為アセスメント演習シート③生活行為向上プラン演習シート④興味・関心チェックシート⑤生活行為課題分析シート⑥生活行為申し送り表の内容やプロセスを説明できる。
4	MTDLPの流れと各シートの説明(渡辺)	①生活行為聞き取りシート②生活行為アセスメント演習シート③生活行為向上プラン演習シート④興味・関心チェックシート⑤生活行為課題分析シート⑥生活行為申し送り表の内容やプロセスを説明できる。
5	アセスメント、プランシートの詳細説明(渡辺)	それぞれのシートの流れを説明できる。
6	生活行為聞き取りシートを用いた面接経験(渡辺)	シートの手順を正確に追えることができる。
7	作業に焦点を当てた事例報告(渡辺)	MTDLPを活用する意義、作業に焦点を当てることは何かを説明できる。
8	実践事例紹介(鈴木健朗)	MTDLPを活用した介入の実際を知り、その有用性を説明できる。
9	実践事例紹介(鈴木健朗)	MTDLPを活用した介入の実際を知り、その有用性を説明できる。
10	MTDLP演習(鈴木健朗)	事例の情報をアセスメントシートに整理し、プランシートを基に適切な支援方法を考案することができる。
11	MTDLP演習(鈴木健朗)	事例の情報をアセスメントシートに整理し、プランシートを基に適切な支援方法を考案することができる。
12	MTDLP演習(鈴木健朗)	事例の情報をアセスメントシートに整理し、プランシートを基に適切な支援方法を考案することができる。
13	MTDLP演習(鈴木健朗)	事例の情報をアセスメントシートに整理し、プランシートを基に適切な支援方法を考案することができる。
14	MTDLP演習(鈴木健朗)	事例の情報をアセスメントシートに整理し、プランシートを基に適切な支援方法を考案することができる。
15	MTDLP演習(鈴木健朗)	事例の情報をアセスメントシートに整理し、プランシートを基に適切な支援方法を考案することができる。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80点以上
宿題授業外レポート				評価なし	良(2):70点以上
授業態度		○		評価なし	可(1):60点以上
発表・作品				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	渡辺 慎介、鈴木 健朗		実務経験紹介	渡辺(MTDLP基礎研修修了)、鈴木(MTDLP指導者)	

科目名	精神障害作業療法学A				単位数	2	時間数	30	
授業形態	講義	対象学生	OT 2年	学期	後期	教員実務経験	有	使用教室	401教室
授業概要	本科目で、精神科作業療法実践のための理論、治療法、関連法規、社会資源を理解し、精神障害者に対する支援のための前提知識習得を目指す。								
一般目標	作業療法士としてクライアントを理解する手法と共に自己理解を促す手法を身につける。精神科作業療法実践の理論、治療法の概要を説明できる。関連法規、社会資源の知識を習得し、それらの概要を説明できる。								
テキスト 参考書等	精神障害と作業療法 新版(三輪書店) 作業療法学ゴールド・マスター・テキスト 精神障害作業療法学 第3版(メジカルビュー社)								

到達目標		
知識(認知領域) ・自身の対人パターンや集団内における自身の居場所を客観的に捉えることができる。・ひとの集団関係技能を発達の理解し、説明できる。・集団療法の効果とその構造を理解し説明できる。・自己実現理論を通して、人が成長し老いることのプロセスを自分なりに表現することができる。・作業療法評価における代表的なアセスメント法の使い方を理解し、実践することで概要を説明することができる。精神科作業療法に関連する治療法、関連法規、社会資源にどのようなものがあるかを列挙し説明できる。		
技術(精神運動領域) なし		
態度(情意領域) セラピストとして必要な基本的治療的態度を身につけ、演習で実践できる。		
回数	授業内容	授業目標
1	オリエンテーション、交流分析法(エゴグラム)、ソシオグラム	交流分析法(エゴグラム)、ソシオグラムを体験的に理解し、自己理解、他者理解できる。
2	セラピストに必要な治療的態度	セラピストに必要な治療的態度(傾聴、共感的理解、受容)を体験的に理解し、要点を説明することができる。
3	セラピストに必要な治療的態度	セラピストに必要な治療的態度(傾聴、共感的理解、受容)を体験的に理解し、要点を説明することができる。
4	回復状態に応じた作業療法(急性期・回復期・生活期)	急性期・回復期・生活期における作業療法の役割を説明できる。
5	回復状態に応じた作業療法(急性期・回復期・生活期)	急性期・回復期・生活期における作業療法の役割を説明できる。
6	Moseyの集団関係技能、集団治療因子、集団構造因子	Moseyの集団関係技能、集団治療因子、集団構造因子といった集団に関する知識を得、各項目も意味を説明することができる。
7	Moseyの集団関係技能、集団治療因子、集団構造因子	Moseyの集団関係技能、集団治療因子、集団構造因子といった集団に関する知識を得、各項目も意味を説明することができる。
8	パラレル作業療法	精神科作業療法における重要な場「パラレル作業療法」を体験し、内面に起こる心情を言語化し、説明できる。
9	認知行動療法、WRAP(クラインスプラン)	認知行動療法、WRAPの概要を説明することができる。
10	心理教育、病識、家族研究、薬物療法	心理教育、病識、家族研究、薬物療法といった精神科領域における治療法を列挙し、それぞれの概要を説明することができる。
11	マズロー自己実現理論、情報処理理論	マズロー自己実現理論、情報処理理論の概念を理解し、説明することができる。
12	精神科作業療法領域に関連する治療・援助の場	外来作業療法、精神療養病棟、グループホーム、精神科訪問看護、就労支援、障害年金の概要を調査し、資料にまとめ、説明することができる。
13	精神科作業療法領域に関連する治療・援助の場	外来作業療法、精神療養病棟、グループホーム、精神科訪問看護、就労支援、障害年金の概要を調査し、資料にまとめ、説明することができる。
14	精神科作業療法領域に関連する治療・援助の場	外来作業療法、精神療養病棟、グループホーム、精神科訪問看護、就労支援、障害年金の概要を調査し、資料にまとめ、説明することができる。
15	講義のまとめ	本科目で履修した項目を列挙し、それらを説明することができる。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80～89点
宿題授業外レポート				評価なし	良(2):70～79点
授業態度			○	評価なし	可(1):60～69点
発表・作品				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	渡辺 慎介		実務経験紹介	精神科病院、高齢期施設での勤務経験(8年)あり、作業療法評価を実施	

科目名	精神障害作業療法評価法				単位数	2	時間数	30	
授業形態	講義	対象学生	OT 2年	学期	前期	教員実務経験	有	使用教室	401教室
授業概要	精神科作業療法は作業療法の起源ともいえる領域である。精神科作業療法を理解することは作業療法そのものを理解することになる。本科目では精神障害とは何かをまず考え、そのための哲学を学び、実際にどのような評価を実施するのかを学ぶこととする。								
一般目標	精神科作業療法における評価の流れと内容を講義並びにグループワークを通して理解する。								
テキスト 参考書等	・精神障害と作業療法 新版(三輪書店) ・作業療法学ゴールド・マスター・テキスト 精神障害作業療法学 第3版(メジカルビュー社) ・標準作業療法学 専門分野作業療法評価学 第3版(医学書院)								

到達目標		
知識(認知領域) ・精神科作業療法の歴史を説明することができる。・DVD鑑賞後、感じたことを表現することができる。・評価の意義・流れを説明できる。・精神科リハビリテーションの考え方を列挙し、説明することができる。・精神科作業療法はどのような構造から成り立っているか説明できる。		
技術(精神運動領域) なし		
態度(情意領域) 授業に参加できる。グループワークで協調性をもって取り組むことができる。		
回数	授業内容	授業目標
1	オリエンテーション	精神科作業療法の形態や診療報酬，精神科リハビリテーションモデルを説明することができる。
2	映画「精神」鑑賞①	精神障害者の病態、生活像を捉える。感想文を作成し、自身の気持ちや考えを表現することができる。
3	映画「精神」鑑賞②	精神障害者の病態、生活像を捉える。感想文を作成し、自身の気持ちや考えを表現することができる。
4	差別と偏見	ディスカッションを通して、精神障害に対する自身の考えを表現できる。
5	精神の病の処遇の歴史と作業療法	精神科医療と精神科作業療法の歴史を説明できる。
6	作業療法の治療・支援構造と治療機序	精神科作業療法の支援・治療構造について説明できる。自身が治療的にどのように利用できるか表現できる。
7	作業療法の治療・支援構造と治療機序	精神科作業療法の支援・治療構造について説明できる。自身が治療的にどのように利用できるか表現できる。
8	精神科作業療法評価の手順と意義を理解し説明できる・グループワーク手順説明	精神科作業療法評価の手順と意義を理解し説明できる。
9	精神科作業療法評価調査(面接、作業面接、観察、他部門情報・目標設定・治療計画立案)	自身の担当項目について協調して取り組むことができる。
10	精神科作業療法評価調査(面接、作業面接、観察、他部門情報・目標設定・治療計画立案)	自身の担当項目について協調して取り組むことができる。
11	精神科作業療法評価調査(面接、作業面接、観察、他部門情報・目標設定・治療計画立案)	自身の担当項目について協調して取り組むことができる。
12	精神科作業療法評価調査(面接、作業面接、観察、他部門情報・目標設定・治療計画立案)	自身の担当項目について協調して取り組むことができる。
13	精神科作業療法評価調査内容発表・フィードバック	聴講者が理解しやすい表現で説明することができる。
14	精神科作業療法評価調査内容発表・フィードバック	聴講者が理解しやすい表現で説明することができる。
15	講義のまとめ	精神科作業療法評価の流れを説明できる。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			80	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80～89点
宿題授業外レポート				評価なし	良(2):70～79点
授業態度			○	評価なし	可(1):60～69点
発表・作品			○	20	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	渡辺 慎介		実務経験紹介	精神科病院、高齢期施設での勤務経験(8年)と現在刑務所非常勤(5年)で作業療法評価を実施。	

科目名	地域作業療法学					単位数	1	時間数	30	
授業形態	講義	対象学生	OT 2年	学期	前期	教員実務経験	有	使用教室	401教室	
授業概要	地域(在宅)で安心してその人らしい暮らしができるように作業療法士やその他の業種で連携して支援するのか制度や施策を学ぶ。									
一般目標	地域作業療法を支えている制度や施策を知る。それらを背景とした作業療法の実践を身につける。臨床実習Ⅰ(地域実習)において通所・訪問・精神科デイケアの機能を理解したうえで臨むことができる。									
テキスト 参考書等	地域リハビリテーション学 第2版(羊土社)									

到達目標		
知識(認知領域) ・現在の社会保障制度(介護保険法、障害者総合支援法)について説明できる。 ・地域作業療法の実践事例が挙げられる。		
技術(精神運動領域) ・現在の社会保障制度(介護保険法、障害者総合支援法)について調べる。 ・地域作業療法の実践事例をまとめる。		
態度(情意領域) ・授業に意欲的な態度で参加できる。 ・授業に参加できる。		
回数	授業内容	授業目標
1	オリエンテーション、地域作業療法の実践	「地域」で生きることに必要な要素を考え、表現することができる。講師の介護予防関連講座における経験から作業療法士の役割を説明できる。
2	地域作業療法の概念	地域包括ケアシステム、地域リハビリテーションと地域作業療法の概念を説明できる。
3	地域作業療法の関連制度と関連法規①	医療保険制度、介護保険制度、障害者総合支援法、地域包括ケアシステム、社会資源に関する概要を説明できる。
4	地域作業療法の関連制度と関連法規②	医療保険制度、介護保険制度、障害者総合支援法、地域包括ケアシステム、社会資源に関する概要を説明できる。
5	臨床実習Ⅰ(地域実習)関連施設①	通所リハビリテーション、訪問リハビリテーション、精神科デイケアの概要を調査し、説明することができる。
6	臨床実習Ⅰ(地域実習)関連施設②	通所リハビリテーション、訪問リハビリテーション、精神科デイケアの概要を調査し、説明することができる。
7	地域作業療法の実践事例① (外部講師: 田村 ひとみ)	通所リハビリテーションで作業療法を実践されている作業療法士から学ぶ。
8	地域作業療法の実践事例② (外部講師: 田村 ひとみ)	介護老人保健施設で作業療法を実践されている作業療法士から学ぶ。
9	地域作業療法の実践事例③ (外部講師: 藤原 信津子)	訪問リハビリテーションで作業療法を実践されている作業療法士から学ぶ。
10	地域作業療法の実践事例④ (外部講師: 徳本 武司)	就労支援を実践されている作業療法士から学ぶ。
11	地域作業療法の実践事例⑤ (外部講師: 徳本 武司)	就労支援を実践されている作業療法士から学ぶ。
12	地域作業療法の実践事例⑥ (外部講師: 山田 朋子)	訪問リハ・起業を実践されている作業療法士から学ぶ。
13	地域作業療法の実践事例⑦ (外部講師: 小林 暉尚)	精神科デイケアで作業療法を実践されている作業療法士から学ぶ。
14	地域作業療法の実践事例⑧ (外部講師: 池永 泰典)	福祉領域で実践されている作業療法士から学ぶ。
15	講義のまとめ	本科目で習得した知識を基に、地域における作業療法士の役割を説明できる。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			50	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80～89点
宿題授業外レポート	○			50	良(2):70～79点
授業態度				評価なし	可(1):60～69点
発表・作品				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	渡辺 慎介、他		実務経験紹介	保健・医療領域で、身体障害や高齢期障害患者への作業療法の実践経験が20年以上ある。	

科目名	臨床実習セミナーⅠ					単位数	1	時間数	30	
授業形態	演習	対象学生	OT 2年	学期	前期・後期	教員実務経験	有	使用教室	401教室、パソコン室	
授業概要	1～5:臨床実習Ⅰ(地域実習)準備のための科目である。実習の目的を理解し、必要書類を期限内に提出するなど、社会人としてのマナーを身につけることを主たる目的とする。6～15:国家試験過去問題や解説文章などを活用して、基礎医学(解剖・生理・運動学、その他)と臨床医学(病理学等)への理解を深める機会とする。Moodleを使用したE-Learning、ヒント等の国試参考書を使用した調べ学習等を行います。									
一般目標	1～5:実習に向けた必要書類を作成し、臨床実習を遂行するための流れを理解できる。必要書類作成を通して然るべき日本語表現をすることができる。 6～15:基礎医学(解剖学・生理学・運動学・その他)と臨床医学(病理学等)の全範囲を履修できる。									
テキスト 参考書等	1～5:なし 6～15:PT・OT基礎固めヒント式トレーニング 基礎医学編 第2版									

到達目標		
知識(認知領域)		
1～5:臨床実習Ⅰ(地域実習)の目的を理解し、実習生プロフィールにそれを反映することができる。 6～15:基礎医学(解剖学、生理学、運動学、その他)と臨床医学(病理学等)の国家試験過去問題を正しく解くことができる。また、問題によっては解説できる。		
技術(精神運動領域)		
・なし		
態度(情意領域)		
1～5:必要書類の期限を厳守し、プロフィール作成の指導教員に対して指導の予約を自主的にとることができる。 6～15:毎回の授業に参加できる。		
回数	授業内容	授業目標
1	臨床実習Ⅰ(地域実習)に関連する講義、書類準備(渡辺)	臨床実習Ⅰ(地域実習)の目的を理解できる。
2	臨床実習Ⅰ(地域実習)に関連する講義、書類準備(渡辺)	実習生プロフィールを作成し、実習の目的を説明できると共に、プロフィール作成に必要な語彙力、文章力を身につけることができる。
3	臨床実習Ⅰ(地域実習)に関連する講義、書類準備(渡辺、各ゼミ担当)	実習生プロフィールを作成し、実習の目的を説明できると共に、プロフィール作成に必要な語彙力、文章力を身につけることができる。
4	臨床実習Ⅰ(地域実習)に関連する講義、書類準備(渡辺)	個人情報保護誓約書などの必要書類をバッチ厳守で作成できる。
5	臨床実習Ⅰ(地域実習)に関連する講義、書類準備(渡辺)	実習先への電話連絡の際、予め確認事項を列挙し、円滑に実施することができる。
6	基礎医学と臨床医学の学習と習熟度確認(1)(東野)	基礎医学(解剖学・生理学、運動学、その他)と臨床医学(内科学等)の国家試験過去問題を解くことができる。また、習熟度テスト(CBT)が100%で終了できる。
7	基礎医学と臨床医学の学習と習熟度確認(2)(東野)	基礎医学(解剖学・生理学、運動学、その他)と臨床医学(内科学等)の国家試験過去問題を解くことができる。また、習熟度テスト(CBT)が100%で終了できる。
8	基礎医学と臨床医学の学習と習熟度確認(3)(東野)	基礎医学(解剖学・生理学、運動学、その他)と臨床医学(内科学等)の国家試験過去問題を解くことができる。また、習熟度テスト(CBT)が100%で終了できる。
9	基礎医学と臨床医学の学習と習熟度確認(4)(東野)	基礎医学(解剖学・生理学、運動学、その他)と臨床医学(内科学等)の国家試験過去問題を解くことができる。また、習熟度テスト(CBT)が100%で終了できる。
10	基礎医学と臨床医学の学習と習熟度確認(5)(東野)	基礎医学(解剖学・生理学、運動学、その他)と臨床医学(内科学等)の国家試験過去問題を解くことができる。また、習熟度テスト(CBT)が100%で終了できる。
11	基礎医学と臨床医学の学習と習熟度確認(6)(東野)	基礎医学(解剖学・生理学、運動学、その他)と臨床医学(内科学等)の国家試験過去問題を解くことができる。また、習熟度テスト(CBT)が100%で終了できる。
12	基礎医学と臨床医学の学習と習熟度確認(7)(東野)	基礎医学(解剖学・生理学、運動学、その他)と臨床医学(内科学等)の国家試験過去問題を解くことができる。また、習熟度テスト(CBT)が100%で終了できる。
13	基礎医学と臨床医学の学習と習熟度確認(8)(東野)	基礎医学(解剖学・生理学、運動学、その他)と臨床医学(内科学等)の国家試験過去問題を解くことができる。また、習熟度テスト(CBT)が100%で終了できる。
14	基礎医学と臨床医学の学習と習熟度確認(9)(東野)	基礎医学(解剖学・生理学、運動学、その他)と臨床医学(内科学等)の国家試験過去問題を解くことができる。また、習熟度テスト(CBT)が100%で終了できる。
15	基礎医学と臨床医学の学習と習熟度確認(10)(東野)	基礎医学(解剖学・生理学、運動学、その他)と臨床医学(内科学等)の国家試験過去問題を解くことができる。また、習熟度テスト(CBT)が100%で終了できる。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			70	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80～89点
宿題授業外レポート	○			評価なし	良(2):70～79点
授業態度				評価なし	可(1):60～69点
発表・作品				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	渡辺 慎介(1～5)、東野 幸夫(6～15)		実務経験紹介	作業療法士としての経験を有している。また、国家試験対策に従事してきた(渡辺、東野)	

科目名	臨床実習Ⅰ（地域実習）					単位数	1	時間数	40	
授業形態	実習	対象学生	OT 2年	学期	前期・後期	教員実務経験		有	使用教室	県内各実習施設
授業概要	2020年度指定規則改正により、通所リハ、訪問リハでの実習が義務付けられた。これは、地域におけるセラピストの活躍が求められているといえる。本実習では社会人として、医療人としての基本的態度を修得するとともに、通所リハ、訪問リハ、精神科デイケアの機能を理解することを求める。また、地域で暮らすためにはどのような支援が必要か考えることを求める。									
一般目標	・医療人を志すにふさわしい自主性、積極性、社会性を養うとともに通所リハ、訪問リハ、精神科デイケアの機能を理解し、説明（レポートで表現）することができる。									
テキスト 参考書等	臨床実習Ⅰガイドブック									

[illegible]

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験				評価なし	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80～89点
宿題授業外レポート	○	○		50	良(2):70～79点
授業態度				評価なし	可(1):60～69点
発表・作品	○			50	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	渡辺 慎介・濱本 尊博 他		実務経験紹介	作業療法士として医療施設、介護保険関連施設および教育機関での実務経験が20年以上ある。また、PT・OT・ST養成施設等講習会修了。臨床実習指導認定者。	

科目名	地域作業療法学実習					単位数	1	時間数	30	
授業形態	実習	対象学生	OT 2年	学期	後期	教員実務経験		有	使用教室	401教室
授業概要	作業療法の対象領域として地域作業療法は、今後さらに広がりをもせる領域である。そのような領域で作業療法士として活躍するために必要な知識と具体的な実践事例を学ぶ。									
一般目標	地域作業療法の役割を学び、作業療法を実践するための計画立案を身につける。									
テキスト 参考書等	地域リハビリテーション論 Ver.7(三輪書店)									

到達目標		
知識(認知領域) ・地域作業療法の役割を説明できる。		
技術(精神運動領域) ・ケアプランが作成できる。		
態度(情意領域) ・授業に参加できる。		
回数	授業内容	授業目標
1	オリエンテーション	講義の概要を説明できる。
2	急性期・回復期実践	急性期・回復期における作業療法の実践事例を学び、説明できる。
3	介護老人保健施設実践	介護老人保健施設における作業療法の実践事例を学び、説明できる。
4	介護老人保健施設実践	介護老人保健施設における作業療法の実践事例を学び、説明できる。
5	通所リハビリテーション実践	通所リハビリテーションにおける作業療法の実践事例を学び、説明できる。
6	訪問リハビリテーション実践	訪問リハビリテーションにおける作業療法の実践事例を学び、説明できる。
7	介護予防事業と地域リハ実践	介護予防事業と地域リハビリテーションにおける作業療法の実践事例を学び、説明できる。
8	認知症の作業療法実践と事例	認知症の方への作業療法の実践事例を学び、説明できる。
9	終末期への関わり	終末期における作業療法の実践事例を学び、説明できる。
10	グループワーク(在宅ケアプラン作成)	在宅ケアプランを作成できる。
11	グループワーク発表	ケアプランが発表できる。
12	グループワーク(入所ケアプラン作成)	入所ケアプランを作成できる。
13	グループワーク(入所ケアプラン作成)	入所ケアプランを作成できる。
14	グループワーク発表	ケアプランが発表できる。
15	まとめ	講義を振り返り、これまで学んだ内容が復習できる。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80点以上
宿題授業外レポート		○		評価なし	良(2):70点以上
授業態度				評価なし	可(1):60点以上
発表・作品				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	信久 美佐子		実務経験紹介	約30年作業療法士として主に介護保険下での地域リハビリテーションに専従している。	

科目名	運動器障害作業療法学A					単位数	2	時間数	30	
授業形態	講義	対象学生	OT 2年	学期	後期	教員実務経験	有	使用教室	301教室	
授業概要	作業療法の対象となる運動器障害を持つ対象者を理解するために、代表的な疾患の病態を理解し、作業療法の介入方法を学習する。									
一般目標	・治療方法選択の基礎となる推論を説明できる知識を習得する。 ・代表的な運動器疾患の評価から治療の実施に至る作業療法過程の知識を習得する。									
テキスト 参考書等	標準作業療法学 身体機能作業療法学第4版(医学書院) 図解 作業療法技術ガイド(文光堂)									

到達目標		
知識(認知領域) 1.治療方法選択の基礎となる推論について説明できる。 2.代表的な運動器障害の評価内容、治療計画が説明できる。(評価から治療の実施に至る作業療法過程を理解する。)		
技術(精神運動領域) なし		
態度(情意領域) 積極的な態度で授業に参加する。 授業に出席する。		
回数	授業内容	授業目標
1	運動器障害のリハビリテーションと作業療法の役割	身体機能OTの3つのアプローチ方法が言える。 bottom-up approachについて説明できる。top-down approachについて説明できる。 インフォームドコンセントについて説明できる。
2	作業療法の過程	作業療法のプロセスを図示し、その流れを説明できる。評価の流れ、まとめ方を説明できる。 問題点の種類を列挙し、それぞれを説明できる。目標の種類を列挙し、それぞれを説明できる。 「目標」として成立するために含むべき要因を列挙できる。治療計画を立案するときに考慮すべき要因を挙げることができる。
3	病期・実施場所に応じた治療・指導・援助内容	5つの臨床推論の種類をあげ、それぞれを説明できる。身体機能作業療法学で用いられる治療アプローチをあげ、それぞれを説明できる。5つの病期について説明できる。病期に応じた援助内容の概要を言える。地域連携パスとは何か説明できる。
4	関節リウマチ①(概要)	臨床症状を列挙できる。Stage分類・Class分類が何の分類か言える。 Stage分類・Class分類の内容が言える。医学的治療の基本的な考え方(流れ)が説明できる。
5	関節リウマチ②(評価)	標準的な評価項目と方法(内容)を説明できる。 RAに多くみられる関節変形について説明できる。
6	関節リウマチ③(OTプログラム)	関節保護の原則を言える。避けるべき動作(その理由)の説明と代替え案の提示ができる。 RAが使用する代表的な自助具・装具(スプリント)について説明できる。
7	関節リウマチ④(類縁疾患)	全身性エリトマトーデス、多発性筋炎、皮膚筋炎の疾患概要が説明できる。 評価・介入を説明できる。
8	脊髄損傷1(概要)	損傷レベルは何をもって表すか言える。ブラウンセカール症候群の特徴を言える。中心性頸髄損傷の特徴を言える。 脊髄損傷による神経症状と合併症を言える。脊髄損傷の3つの排尿機構について説明できる。 自律神経障害、自律神経過反射の症状を言える。
9	脊髄損傷2(評価)	脊損に使われる一般的な評価手段と評価項目、注意事項を列挙することができる。AISAのKEY SNSORY POINTが言える。 AISAのKEY MUSCLESが言える。ザンコリの機能レベル分類と残存筋(残存運動機能)が言える。
10	脊髄損傷3(レベル別ADL)	運動機能レベルとADL到達度の関係、必要な環境調整(自助具、補装具、福祉用具、住宅改修)について説明できる。
11	脊髄損傷4(OTプログラム)	病期ごとの作業療法の目標の違いを説明できる。病期ごとのプログラムの内容を説明できる。 準備的活動について説明できる。テノデシスアクションについて説明できる
12	脊髄損傷5(OTプログラム)	病期ごとの作業療法の目標の違いを説明できる。病期ごとのプログラムの内容を説明できる。 不全麻痺の脊髄損傷者の運動麻痺の特徴とアプローチを説明できる。
13	熱傷	熱傷の評価・介入を説明できる。
14	加齢性関節疾患	加齢性関節疾患の評価・介入を説明できる。
15	骨関節疾患③(OA、腰痛等)	腰痛の評価・介入を説明できる。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80～89点
宿題授業外レポート				評価なし	良(2):70～79点
授業態度				評価なし	可(1):60～69点
発表・作品				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	河本 玲子		実務経験紹介	作業療法士として30年以上総合病院に勤務し、運動器疾患に対する治療を多く経験した。	

科目名	運動器障害作業療法学B					単位数	2	時間数	30	
授業形態	講義	対象学生	OT 2年	学期	後期	教員実務経験	有	使用教室	401教室	
授業概要	作業療法の対象となる運動器障害を持つ対象者を理解するために、代表的な疾患の病態を理解し、作業療法の介入方法を学習する。									
一般目標	代表的な運動器疾患の評価から治療の実施に至る作業療法過程の知識を習得する。									
テキスト 参考書等	標準作業療法学 身体機能作業療法学第3版(医学書院) 図解 作業療法技術ガイド(文光堂)									

到達目標		
知識(認知領域) 代表的な運動器疾患の評価内容、治療計画を説明できる。		
技術(精神運動領域) 特になし		
態度(情意領域) 積極的な態度で授業に参加する。 授業に出席する。		
回数	授業内容	授業目標
1	骨関節疾患①(骨折総論)	骨折の総論について説明できる。
2	骨関節疾患②(大腿骨骨折等)	大腿骨骨折等の評価・介入を説明できる。
3	骨関節疾患④(上腕骨の骨折等)	上腕部の骨関節疾患の評価・介入を説明できる。
4	骨関節疾患⑤(前腕骨骨折、手関節骨折等)	前腕部の骨関節疾患の評価・介入を説明できる。
5	骨関節疾患⑥(手指骨折等)	手部位の骨関節疾患の評価・介入を説明できる。
6	ハンドセラピー(モダリティプログラム)①	ハンドセラピーに関する評価・介入を説明できる。
7	ハンドセラピー(モダリティプログラム)②	ハンドセラピーに関する評価・介入を説明できる。
8	腱損傷①(屈筋腱)	屈筋腱損傷の評価・介入を説明できる。
9	腱損傷②(伸筋腱)	伸筋腱損傷の評価・介入を説明できる。
10	CRPS(複合性局所疼痛症候群)	CRPSの評価・介入を説明できる。
11	末梢神経損傷①	末梢神経損傷の評価・介入を説明できる。
12	末梢神経損傷②	末梢神経損傷の評価・介入を説明できる。
13	末梢神経損傷③	末梢神経損傷の評価・介入を説明できる。
14	絞扼神経障害①	絞扼神経損傷の評価・介入を説明できる。
15	絞扼神経障害②	絞扼神経損傷の評価・介入を説明できる。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80～89点
宿題授業外レポート				評価なし	良(2):70～79点
授業態度				評価なし	可(1):60～69点
発表・作品				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	木原 涼子		実務経験紹介	作業療法士として約25年間、整形外科関連の医療施設に勤務した経験を有する。	

科目名	運動器障害作業療法評価法実習					単位数	2	時間数	30	
授業形態	実習	対象学生	OT 2年	学期	後期	教員実務経験		有	使用教室	401教室・レク室
授業概要	これまでに学んだ基礎的な身体機能評価法を、実際の患者(対象者)の治療場面を想定し適切に実施する事が出来る。									
一般目標	・自己紹介および対象者の氏名を確認するなどの基本的な対応を修得する。・対象者の状態に合わせた、適切な検査、測定方法を修得する。・検査、測定の目的、方法を対象者に説明し了承を得るなどの、インフォームドコンセントに関する基本的対応を修得する。・検査、測定を適切な方法、時間内で実施する技術を修得する。・検査、測定の結果を適切に対象者に説明する技術を修得する。									
テキスト 参考書等	・標準作業療法学 作業療法評価学(医学書院) ・標準作業療法学 身体機能作業療法学(医学書院) ・新・徒手筋力評価法(協同医学出版社) ・実践リハ評価マニュアル 臨床ROM(フューマン・プレス)									

到達目標		
知識(認知領域) 各評価技術に関する基本的な目的、手順、留意点を理解できる。		
技術(精神運動領域) 各評価について、その方法、場所、時間、使用機材を適切に用い実施出来る。		
態度(情意領域) 評価対象者に対し、適切な言葉使い(敬語を使用し専門用語を使用しない)、態度(目線を合わせるなど)が出来る。 医療従事者として適切な身だしなみ(髪型、化粧、服装など)を整える事が出来る。		
回数	授業内容	授業目標
1	形態計測	四肢長、四肢周径計測について、検査の意義・目的、対象、方法、注意事項、使用機材の選定について理解し、実際の患者を想定し正確に実施することが出来る。自己紹介、検査目的の説明、承諾、実施、検査結果の説明を適切に実施出来る。
2	関節可動域測定①	ROM測定について、検査の意義・目的、対象、方法、注意事項、使用機材の選定について理解し、実際の患者を想定し正確に実施することが出来る。自己紹介、検査目的の説明、承諾、実施、検査結果の説明を適切に実施出来る。
3	関節可動域測定②	ROM測定について、検査の意義・目的、対象、方法、注意事項、使用機材の選定について理解し、実際の患者を想定し正確に実施することが出来る。自己紹介、検査目的の説明、承諾、実施、検査結果の説明を適切に実施出来る。
4	関節可動域測定③	ROM測定について、検査の意義・目的、対象、方法、注意事項、使用機材の選定について理解し、実際の患者を想定し正確に実施することが出来る。自己紹介、検査目的の説明、承諾、実施、検査結果の説明を適切に実施出来る。
5	関節可動域測定④	ROM測定について、検査の意義・目的、対象、方法、注意事項、使用機材の選定について理解し、実際の患者を想定し正確に実施することが出来る。自己紹介、検査目的の説明、承諾、実施、検査結果の説明を適切に実施出来る。
6	筋力検査①	MMTについて、検査の意義・目的、対象、方法、注意事項について理解し、実際の患者を想定し正確に実施することが出来る。自己紹介、検査目的の説明、承諾、実施、検査結果の説明を適切に実施出来る。
7	筋力検査②	MMTについて、検査の意義・目的、対象、方法、注意事項について理解し、実際の患者を想定し正確に実施することが出来る。自己紹介、検査目的の説明、承諾、実施、検査結果の説明を適切に実施出来る。
8	筋力検査③	MMTについて、検査の意義・目的、対象、方法、注意事項について理解し、実際の患者を想定し正確に実施することが出来る。自己紹介、検査目的の説明、承諾、実施、検査結果の説明を適切に実施出来る。
9	筋力検査④	MMTについて、検査の意義・目的、対象、方法、注意事項について理解し、実際の患者を想定し正確に実施することが出来る。自己紹介、検査目的の説明、承諾、実施、検査結果の説明を適切に実施出来る。
10	感覚検査①	表在覚、深部感覚検査について、検査の意義・目的、対象、方法、注意事項、使用機材の選定について理解し、実際の患者を想定し正確に実施することが出来る。自己紹介、検査目的の説明、承諾、実施、検査結果の説明を適切に実施出来る。
11	感覚検査②	表在覚、深部感覚検査について、検査の意義・目的、対象、方法、注意事項、使用機材の選定について理解し、実際の患者を想定し正確に実施することが出来る。自己紹介、検査目的の説明、承諾、実施、検査結果の説明を適切に実施出来る。
12	感覚検査③	表在覚、深部感覚検査について、検査の意義・目的、対象、方法、注意事項、使用機材の選定について理解し、実際の患者を想定し正確に実施することが出来る。自己紹介、検査目的の説明、承諾、実施、検査結果の説明を適切に実施出来る。
13	上肢機能検査	上肢機能検査(STEF)について、検査の意義・目的、対象、方法、注意事項、使用機材の選定について理解し、実際の患者を想定し正確に実施することが出来る。自己紹介、検査目的の説明、承諾、実施、検査結果の説明を適切に実施出来る。
14	まとめ	種々の検査の意義・目的、対象、方法、注意事項、使用機材の選定を理解したうえで、効率的な評価計画を立て正確に実施することが出来る。
15	まとめ	種々の検査の意義・目的、対象、方法、注意事項、使用機材の選定を理解したうえで、効率的な評価計画を立て正確に実施することが出来る。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80点以上
宿題授業外レポート				評価なし	良(2):70点以上
授業態度				評価なし	可(1):60点以上
発表・作品				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	河本 玲子		実務経験紹介	作業療法士として医療施設、および教育機関での実務経験が20年以上ある。	